

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300422		
法人名	社会福祉法人グリーンセンター福祉会		
事業所名	グループホームグリーンピア名張		
所在地	三重県名張市東田原2745番地		
自己評価作成日	令和元年7月10日	評価結果市町提出日	令和元年10月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2471300422-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2471300422-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	元年	8月 20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた環境の中で、庭や畑を見ながら外気浴や散歩・お茶を楽しまれている。ボランティアの慰問や保育園児との交流会の開催と地域の市民センターの招待で行事に参加させていただくなど、地域交流に努めている。ご家族の要望があれば、看取り介護も実施している。同敷地内には、特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・ケアハウス・居宅介護支援事業所が併設されており、各事業所との連携が来ている。施設内の地域交流ホールを活用した合同の行事もあり、広い視野での介護支援が来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同一法人経営の特別養護老人ホーム・ケアハウス等が併設している為、職員同士の連携がとれている。事業所の横には森林や利用者が関わっている畑が隣接しており、利用者は毎朝緑あふれる風景の中、外気浴をして体調に応じて季節の野菜の収穫等に携わっている。地域交流の点でも敷地内の地域交流ホールを地域の方に月4~5回無償で提供し、ボランティアの受け入れや中学生の職場体験など積極的に行われている。利用者支援においては、職員はどんな時も利用者の思いや言葉を一度は受け止める事を目標にして、利用者の意向を尊重することを実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念“笑顔”“あいさつ”“言葉使い”を念頭に置いて実践につなげている。また、理念をホールに掲示している。	毎年管理者と職員が一緒になって行動規範となるスローガンを考えている。今年は利用者の思いや心の声を読み取り、気づく力を身につけるとして、それを台所に掲示し、その言葉を意識して利用者支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設見学や職場体験・実習生の受け入れ、地域の市民センターの行事への参加、ボランティアの慰問などで地域住民や子供たちとの交流を図っている。	市民センターの七夕会など年3回参加し、利用者の作品展示も行っている。事業所内の地域交流ホールを積極的に地域に貸出して、月5回ほど利用されている。桔梗が丘中学生の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受け入れなどを通じて、認知症への理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・地域代表者・名張市の出席にて、運営推進会議では、客観的な視点で意見を頂き情報交換をしている。職員間で議事録を回覧してサービス向上につなげている。	2か月に一度、特別養護老人ホームと合同で開催されている。家族に利用者の日常を報告して意見交換したり、市や地域包括から介護保険の加算の背景のアドバイスをもらったり、会議を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の報告をして、必要に応じて助言を頂いている。介護相談員の訪問もあり、協力関係を築いている。	年複数回、名張市の社会福祉連絡会議にケアマネージャーら職員が参加して、定期的に勉強会・防災研修を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束の対象者はいない。毎月身体拘束廃止推進委員会と身体拘束適正化委員会に出席し取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会・身体拘束適正化委員会を特別養護老人ホームと合同で、今年は年11回開催している。管理者含め職員は、利用者を見守り、その方にあった声掛けをすれば、不必要な施錠も減らせると考え実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会で情報交換している。年間計画では、高齢者虐待防止研修を実施して、意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいない。 研修に参加して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と解約時には、文章と共に十分な説明を行いご要望やご意見がないかをお聞きして、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者家族が地域や行政に意見交換できる場を設けている。面会時にも家族のご要望をお聞きしている。利用者との日常会話の中で意見・要望を察知し業務に役立てている。	利用者の外出したいの希望を叶えるため、事業所の裏にある緑に囲まれたスペースで毎朝外気浴を行っている。運営推進会議でも家族との意見交換を行い、家族が面会に訪れた際も、要望を聞き出そうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング、日常会話の中で職員の意見を聞き、処遇改善など話し合っている。	年2回、4月・9月に職員の個別面談を行い、職員自ら自己評価をして振り返りを行っている。また、管理者も現場に出ることにより、職員の意見をその場その場で聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により、給料に反映させている。 また、安全衛生委員会を設置して就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は月1回、施設外研修も推進し、研修内容を報告する機会を設けておりサービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会において、情報交換や交流会を通じて、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や入所申請時に話し合いの場を設けて、ご要望をお聞きしてよい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入所申請時に話し合いを持ち、さらに契約時に話し合いをして信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご要望やご意見をお聞きして優先すべき課題やサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼夜生活を共にしているので信頼関係が出来ている。一人一人が生きがいを持って生活が送れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の生活の様子をお伝えして何かあれば電話連絡をし、情報の共有をし、ご要望をお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	午後にお茶をしに出かけたり、昼食に出かけることができた。	家族に連れられて墓参りに行ったり、知人が訪ねてこられたり、旧知の方と手紙のやり取りを促したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談笑しやすい場所・くつろぎやすい場所の環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者はないが、要相談の応じる体制は整っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りやミーティング・連絡ノート連絡ノートの活用で情報を共有し、意向に沿った支援をしている。	職員が利用者支援の際に気づいたことを些細なことでも連絡ノートに記載して、職員同士で情報を共有し把握して、利用者の意向を見つめるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人・家族・相談員などより情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子観察や申し送り、ミーティングなどで職員間の情報の共有を図っている。また、看護師との連携を図り一人一人にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは担当者を決めて、本人の状態を把握し課題やケアについて話し合っている。	家族の要望を聞き、利用者本人の思いを読み取るようにして、ケアプランを作成している。3か月に1回モニタリングを行い、半年に1回ケアプランの変更を行っている。	ケアプランの作成を、家族の意向・モニタリングを行った担当職員の意見を参考に管理者が行っているが、担当職員の役割が現状見えにくく、また管理者が全ての作業を行っている為、担当職員の関与を増やすことが望まれる
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・バイタルチェックなどを日誌や個人記録に記入して、職員間で情報共有しケアにいかせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにあった支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流ホールを活用した外部ボランティアの慰問の利用や園芸・散髪ボランティアや地域の市民センターの行事への参加の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の嘱託医の診療を受け、健康管理が出来ている。また、個々の状態に応じた専門医の受診の支援もしている。	今年の4月に体制を見直し、24時間対応可能な新たなかかりつけ医の下、月1回の訪問診療と体調の変化に応じてその都度往診を受けている。日常的な健康管理は看護師が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告・相談をし、日常の健康管理と医療的な処置を行っている。また、看護師と連携を図り、24時間体制を整え、緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者情報を病院に持参して家族を交えて情報交換をしている。入院中は連絡を取り経過を情報収集している。退院時には、退院前カンファレンスに家族と一緒に参加して連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を入所時に聞かせて頂き、看取りの指針を定め、職員・主治医・看護師・協力機関と連携を取りながら、支援することとなっている。	昨年度も2人の看取りを行っており、入居契約の際、重度化した場合の対応は説明している。利用者の健康状態の変化ごとにも何度も家族と意見交換するようにして、本人・家族の希望をくみ取り医師と連携し、看取り支援をするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を中心に事故の予防・対応を職員に周知している。急変には、24時間体制で看護師と連絡が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を日中想定と夜間想定で実施している。消防署と連携して助言を受けながら、訓練の充実を図っている。地域の非常時の避難所にもなっている。	年2回防災訓練を実施しており、災害時の水や缶詰等3日程度の食料を備蓄している。また市により福祉避難所に指定されており、避難所協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の心を大切に、その人にあった言葉かけを心がけている。また、年1回人権研修で学習している。	排泄介助の際も大声ではなく静かに介助するようにしている。人権研修に職員が参加して、プライバシーの確保と言葉遣いに気を付けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い・希望を傾聴して、意思疎通が困難な場合でも言葉がけで働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・散歩・外に出たい・就寝など、一人一人の思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの馴染みのある衣類や小物などを持参され、季節にあった洋装が出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事の盛り付けや食器洗い、テーブル拭きなどを出来る事をして頂いている。	主食のご飯・味噌汁は事業所で、副食は委託業者が作っており、月一度の給食会議で利用者の希望を委託業者に伝えるようにしている。利用者の誕生日には、職員が手作りケーキを用意して利用者にするまっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に応じて、摂取しやすい量や摂取しやすい形態の提供をし、食事摂取量の記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・マウスウォッシュを使用したうがい・口腔ケアスポンジ・口腔ウェッティーの使用で本人の状態に合った方法で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、行動・仕草の様子を観察し、誘導のタイミング考慮して支援している。	個別に排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握するようにしている。利用者の個室すべてにトイレがある為、可能な限りトイレ誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携で排便コントロールをし、毎日の乳製品の摂取や外気浴・体操で体を動かす事をしている。また、全介助の方の便秘時には、トイレ排泄の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を考慮し、看護師と連携を取りながら入浴の支援をしている。	毎週火・金曜日の午前中に入浴している。特に入浴の順番を決めることなく、のんびりと入浴を楽しんでいる。季節にはゆず湯にしたり、入浴を楽しめる様にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室のベッドやフロアのソファの配置で好みの場所で休息できる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋をファイルに綴じている。薬の内容については、十分理解できるような環境を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活・日常会話の中から、楽しみを見出し気分転換を図れるような生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加を支援している。毎日の外気浴を行なっている。外食やお茶をしに出かける支援をしている。	日常的には事業所に隣接の緑っぱいの広場での外気浴をしている。利用者が外出する際、化粧したり洋服を選んだりする喜ぶ姿を何度でもさせてあげたいとの思いから、定期的に喫茶店・回転すしやなど頻繁に外出支援を行っている。また外出の難しい方には買い物代行も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金をお預かりしている。支払いの困難な方はほぼ全員。一人だけ支払いを試みている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望はないが、手紙を書かれる方で一緒にポストに投函しに行く支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた環境にあり、室内は明るく外の景色を見る事が出来ている。随時季節感を取り入れる工夫をしている。	利用者が日中生活する居間兼食堂のガラス窓からは、緑あふれる森林がひろがっているのが見え、開放的で室内はとても明るい。風呂は檜風呂で手すり付の階段が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を気の合った方たちがくつろげるように配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、写真や好みの置物を飾られている。安全面も考慮して心地良い空間づくりに努めている。	それぞれの部屋にトイレ、洗面所があるが清潔に維持されている。写真を飾ったり、テレビを設置したり利用者それぞれが個性を持った部屋で生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で移動しやすく、安全に生活できる場となっている。自立した生活が出来るように名札や目印を付けている。		